

目指す学校像	「着実・勤勉・自主」の校訓に基づき、「人間形成」と「大学進学指導」を2本の柱とした教育を行う。
--------	---

重点目標	① 人間形成 ② 大学進学指導				
	評価	<table border="1"> <tr> <td>A 達成度80%以上</td> <td>B 達成度60%以上</td> </tr> <tr> <td>C 達成度40%以上</td> <td>D 達成度40%未満</td> </tr> </table>	A 達成度80%以上	B 達成度60%以上	C 達成度40%以上
A 達成度80%以上	B 達成度60%以上				
C 達成度40%以上	D 達成度40%未満				

学校関係者評価実施状況	
実施日	令和8年 3月 14日
参加者	評議員及び父母の会代表 4名

※ 実施日とは学校関係者による評価が最終的になされた日とする。

学校自己評価

	現状と課題	具体的改善策	達成状況	評価	次年度の課題
①	素直ではあるが、幼稚な面を残す生徒が多く、それゆえ他者への配慮、自立した生活習慣の確立に不安のある生徒もおり、全体の指導と合わせて個々への適切な支援が必要である。	各種講演会や学年集会、日々のHR活動、授業、部活動を通じて、生徒一人一人に対して、適切な支援を行う。特に中学生は、道徳、総合の時間も有効活用して指導にあたる。	全体に対する指導の機会は設けられているが、働きかけが十分とは言えない状況である。個々に応じた支援に関しては、少しずつ改善している。	B	目前の問題に対応するといった課題解決的な指導が中心となり、後手に回ってしまう状況を改善すべく、日常のHR活動を通して、生徒個人個人の成長を促すための、発達支持的生徒指導をより充実させる必要がある。
	高校探究研修旅行、中学修学旅行や様々な校外活動、その他の行事が単発の行事になる傾向がある。総合的な学習の時間などを活用し、3年間、6年間の見通しを確立する必要がある。協働・共創の意識もさらに深めたい。	今年度ユネスコスクールに認定されたため、複数あるその目的と活動テーマを各学年に設定して、教員・生徒がそれを意識する仕組みを構築する。	ユネスコスクールの理念のもと、生徒は平和・人権尊重、歴史・文化理解、持続可能性を中心に活動した。川越での地域探究などの社会科見学や分散型探究研修旅行を通して、知見を広げ深めた。中学では、ビブリオバトルや発表活動で論理的思考力と表現力を育成した。道徳に時間に他者理解・協働のテーマを扱った。	B	探究的な学び、協働的な学び、さらには社会課題に関する意識、キャリア学習などについての中学3年間、高校3年間、中高6年間の見通しをさらに明確にし、教員・生徒で共有する。
②	各学年の個々の進路活動が徐々に連関している。生徒が主体的に大学進学やその後の将来を考えられるように、自身の強みを活かした受験の情報を家庭と学校で共有したい。	進路希望調査や職業適性の早期分析を図る。また、学年に応じた適切かつ計画的な指導をすると共に情報発信を行う。	大学進学を念頭とした学年及び各生徒に適した進路探究活動が概ね行われた。	B	進路指導部による進路指導計画を次年度用に再構築し、実効性ある具体的かつ組織的指導を展開する。

令和7年度 学校評価用紙（自己評価・学校関係者評価）

城北埼玉中学・高等学校

項目	評価項目	自己評価	学校関係者評価	
学校経営	① 教育目標	明確な教育目標を掲げ、その実現のために意欲的な取り組みを行っている。	C	B
	② 組織運営	校務分掌の運営は学校の実態に即し、円滑に行われている。	B	B
	③ 施設・設備	施設・設備は適切に管理・整備されており、定期的な点検を行っている。	B	B
	④ 危機管理	災害や事故の防止のための管理体制が整っており、対応訓練を適切に実施している。	B	B
	⑤ PTA活動	PTA活動を充実させるために、学校として努力している。	B	B
	⑥ 広報活動	保護者に学校の情報が届くよう配慮されている。また、受験生に対する広報も積極的に実施している。	B	B
教育活動	⑦ 教育課程	学校の教育目標に即した教育課程の編成がなされている。	B	B
	⑧ 教科指導	学校の教育目標実現のため、指導内容・指導方法を工夫している。	B	B
	⑨ 特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動・クラブ活動が活発に行われている。	B	B
	⑩ 進学指導	生徒一人一人の志望・能力・適性に合わせた進学指導を行っている。	B	B
	⑪ 生活指導	生徒が社会規範に則った生活を送ることができるよう、適切な指導を行っている。	B	B
	⑫ 保健衛生指導	生徒の事故・病気に対する対応を適切に行い、同時に健康管理についての啓蒙に努めている。	A	A
	⑬ 学校図書館	蔵書の整備・管理は適切に行われ、読書活動の啓蒙に努めている。	A	A
	⑭ 国際化教育	国際化に対応した教育を適切に行っている。	B	B
重点目標	① 人間形成	生徒個々への適切な支援を行う。	B	B
		体験活動を増やし、生徒の探求的思考を伸ばす。	B	B
	② 大学進学指導	大学進学を念頭に各学年の連続性を意識させた指導を行う。	B	B

※自己評価は教職員、学校関係者評価は学校評議員・父母代表・同窓会代表による。

評価基準は肯定的評価80%以上をA、60%以上をB、40%以上をC、40%未満をDとする。